校長先生の初恋物語

第15話　とっくんvs足長君

「なんだよ、それ。とっくんのプレゼントって、カールのチーズ味かよ。カールなんて、ほら、目の前にあるじゃん。とっくんはおかしやさんのよしこさんに、カールなんかプレゼントして、喜ぶと思ったのかよ。笑っちゃうよ。ばっかじゃないの。」
足長君はとっくんのことをおもいっきりばかにしてきました。それだけではありません。周りの女の子たちも、足長君といっしょに大笑いしていました。
「ぼくみたいに、水玉のリボンとかさ、センスのいいプレゼントを持ってきなよ。なんだよ、カールのチーズ味って。笑わせないでよ。」
とっくんは、「しっぱいしたなぁ。」と思いました。
　ダンプさんも、とっくんを助けられません。足長君や、周りの女の子たちがばかにして大笑いしているのをだまって見ているだけでした。さすがに、ダンプさんも、とっくんを助けられる感じではなくなっていました。
はずかしくて、はずかしくて、目からじわじわとなみだがにじんできました。はずかしくて、今すぐこの部屋から飛び出して家に帰りたくなりました。もう少しで、目からなみだがこぼれおちようとしているその時です。そう、その時です。とっくんはよしこさんのことをますます好きになったのです。
　よしこさんは、足長君たちとはちがっていました。最初はカールのチーズ味にびっくりしていましたが、よしこさんはみんなとおなじようにとっくんをばかにしませんでした。とっくんがわたしたカールのふくろを手でやぶり、その中のカールを1つ口の中に入れた後にこんなことを言いました。

「とっくん、ありがとう。おいしいよ。わたしも、カールのチーズ味大好きよ。とっくんと同じおかしがすきで、うれしいよ。」
これが、よしこさんなんです。これが、やさしさのかたまり、よしこさんです。とっくんが好きなのは、こんなところです。
　よしこさんは、笑っていた女の子たちに「とっくんのこと、笑わないで。」とおこってくれました。足長君にも、おこってくれました。よしこさんにおこられたみんなは、すぐに反省して、とっくんにあやまってくれました。そして、そのあとみんなで、とっくんが持ってきたカールのチーズ味も、おいしく食べました。とっくんはこのたんじょうび会で、よしこさんのことが、もっともっともっと好きになりました。

　次の日になりました。足長君は次の日、クラスの男の子たちを集めて、よしこさんにカールをわたしたとっくんのことをばかにする話をしていました。
「とっくんが持ってきたプレゼント、なんだと思う？笑えるぜ。なんとカールのチーズ味。そんなのをプレゼントする人、世の中にいるわけないよな。とっくんて、やっぱり、ばっかだよなぁ。」
足長君の周りの男の子たちも、一緒になって大笑いしていました。その声は、一番前にすわっているとっくんの耳にも、もちろん聞こえてきましたが、となりのよしこさんが「気にしない、気にしない。」と言ってくれたので、がまんしたんです。でも、あまりにもしつこく、いつまでも話しているので、とっくんはついにがまんできなくなって、止めようとするよしこさんの手をはらって、足長君に向かっていきました。

　教室のみんなが、いっせいにとっくんを注目します。学校一のアイドル、マンモス小学校のスーパースター、足長君にさからう人なんてこれまで1人もいません。そんな足長君に、弱虫とっくんが向かっていくのですから、注目されるのは当然です。
　とっくんは、足長君の目の前まで行きました。足長君は目の前に立ったとっくんに向かって言いました。
「なんだよ、弱虫とっくん。なんかぼくに用なの。何か言いたいことあるの。何にも言えない、弱虫のくせに。何しに来たんだよ。」
とっくんは、そんな足長君に向かって、思い切って言ってやりました。
つづく
ついに、弱虫とっくんが足長君に立ち向かうぞ

次回予告　　がんばれとっくん

つづきは18日(火)　みんな楽しみにしてね。